**啓林館　i版 生物基礎（生基706）　観点一覧**

(１)　内容の取り扱い

・豊富な内容がわかり易く記載されており，大学に進学する生徒の多い学習実態に合致している。

・序章には，探究の例としてノーベル賞授賞者の大隅博士のオートファジーの発見過程が取り上げられ，生徒の関心を高めるとともに，細胞への導入がスムーズに行えるように配慮してある。

・ヒトの生物学としての取り扱いを重視している。免疫の扱いを重視するとともに模式図を理解しやすいものに改良されている。がんや最新の知見や医療の話題も取り上げられている。

・各部扉にはその部の目標が示されている。さらに，考えを深められる問いかけが掲載されている。第4部のバイオーム図鑑には多数のイラスト・写真があるなど情報量が豊富である。裏表紙の見返しには，身近な生活に関わる生物の最新の研究が掲載され，人類の課題も紹介されており，生物学の有用性を知る機会となり，学ぶ意義をもちやすい。

・適切な箇所で「探究」「資料学習」があり，実験結果やデータから考える機会をもうけることができ，科学的に考える力がつく工夫がある。

・基本的で重要な実験が紹介されている。

(２)　構成・分量

・レイアウト上の工夫が随所にみられ，取り組みやすく構成されている。

・見開きが「節」になっており，授業の進度に対応しやすい構成である。

・指導要領の通りに大別・構成されている。

・部末に「学習のまとめ」と「一問一答」を置き，生徒が自身で達成度を振り返るのに役立つよう配慮されている。「演習問題」は定期試験の事前対策の問題として活用できるレベルに設定されている。

・本文の補足説明は「参考」として，発展的内容は「発展」として豊富に扱っており，生徒の学習段階や関心に応じた学習が効果的になされるように配慮されている。興味関心を導く内容が「ＴＯＰＩＣ」という見出しで整理され，生徒が生物学へ興味をもてる工夫がある。

・巻末に｢実験の注意事項｣「野外調査のルールと注意事項」｢コンピュータの利用例｣｢報告書の作成例と研究発表のポイント｣等，豊富な資料の掲示があり，生徒に実験・観察等をさせる場合に有用である。

(３)　表記・表現および指導上の便宜

・本文の記述は平易で丁寧であり，理解しやすいように配慮されている。

・図を全面的に改良し，生徒の理解を助け，学習効果を高めるような配慮されている。

・生徒が迷うと予測できる点は「アドバイス」，見逃しやすい重要な点は「ワンポイント」，生徒が間違って考えてしまいやすいポイントは「なるほど」，興味を持てる雑学的知識は「ＴＯＰＩＣ」として，それぞれ適切な箇所にわかりやすいデザインで配置されている。

・紙面からＱＲコードでアクセスできる動画コンテンツ，アニメーションコンテンツ，一問一答などが用意され，生徒の自学自習・復習などにも使用でき，学習効果が期待される。

・読みやすいユニバーサルフォントが使われている。